

---

# 寝てる際に

モノ

---

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

## 注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

### 【小説タイトル】

寝てる際に

### 【Nコード】

N1027E

### 【作者名】

モノ

### 【あらすじ】

平次と和葉。平次のキャラが違いますけど、それでも良い人は読んでみてください。

(前書き)

初めての投稿です。

いつからかずっと想ってた。  
俺の隣りに居るのは和葉であって欲しいと。

「ヘーjee、来たったで！」

部活が休みの土日には必ず俺の部屋に来る和葉。

「誰も来てくれなんて言うてへんねんけど？」

素直になるのが嫌でつい憎まれ口を叩いてしまう。

「なんやそれ！」

「はいはい。…てお前何ベッドに寝てんねん」

俺が椅子に座ってるのを良い事に和葉はベッドに寝転がる。ちよつとは俺の気持ちも考えて欲しいんやけど。

「寝るなら自分の家で寝たらええやん」

「どこでもええやろー」

「…どこでもよおないわ」

「…昨日あんま寝てへんねん」

「なんや、お前にしちや珍しいやん」

「考え事しとっ…て」

「ふーん…」

「う…ん」

だんだん和葉の声が消えていく。

もしやと思って、和葉の方を見たらスヤスヤと寝とった。

「…和葉さん？」

ありえへん。ほんまに寝てしもたみたいや。

「へ…いじ…」

寝言だとわかっていてもドキツとする。

ベッドの近くに行き和葉の顔を覗き込む。

「お前の傍に居るのは、俺だけでええのに」

届かない声を宙に浮かせて、少し悲しくなった俺はそっと和葉の髪を撫でた。

全てが自分のものになったらどんなに幸せやろうな。

せやけど、どうすればええかわからへん。

へんに傷付けて泣かせたくはない。

「俺らしくもないな」

自分の目の前で無防備に寝る幼馴染みを見て、苦笑いした。

「…今は起きんといてな」

俺だけの秘密やから、そう思って優しくキスをした。

## PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になるうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連に横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能<sup>たんのう</sup>してください。

---

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。  
<http://ncode.syosetu.com/n1027e/>

---

寝てる際に

2010年10月14日12時08分発行